

---

## 第12回アジア証券人フォーラム (ASF) 東京ラウンドテーブルについて

---

日証協 平 28.11.28~12.2

---

日本証券業協会では、アジア諸国の証券市場の自主規制機関・業界団体・規制当局等から参加者を招き、第12回アジア証券人フォーラム (Asia Securities Forum: ASF) <sup>1</sup>東京ラウンドテーブルを、11月28日(月)から12月2日(金)の日程で開催した。

平成18年3月に開始された本セミナーは、近年のアジア証券市場の発展とも相俟って年々参加機関の数が増え、今回はボンベイ証券取引所仲介者フォーラム(BBF)が初めて参加し、計17の国・地域から20機関・21名が出席した。この結果、第1回から通算すると25カ国・地域からのべ198名が本セミナーに参加したことになる。

(○印は今回初参加の機関、\*印はASFの非正規メンバー)

アジア	アジア証券業金融市場協会 (ASIFMA)
中国	中国証券業協会 (SAC)
香港	香港証券業協会 (HKSA)
インド	インドナショナル証券取引所参加者協会 (ANMI) ボンベイ証券取引所仲介者フォーラム (BBF) ○
インドネシア	インドネシア証券業協会 (APEI)
韓国	韓国金融投資協会 (KOFIA)
モンゴル	モンゴル証券業協会 (MASD)
台湾	台湾証券業協会 (CTSA)
タイ	タイ証券業協会 (ASCO) タイ債券市場協会 (Thai BMA)
トルコ	トルコ資本市場協会 (TCMA)
ベトナム	ベトナム証券業協会 (VASB) ベトナム債券市場協会 (VBMA)
カザフスタン	カザフスタン国立銀行 (NBK) *
ラオス	ラオス証券委員会 (LSCO) *
ミャンマー	ミャンマー証券取引委員会 (SECM) *
ネパール	ネパール証券委員会 (SEBON) *
シンガポール	シンガポール証券業協会 (SAS) *
スリランカ	スリランカ証券取引委員会 (SECSL) *

研修プログラムでは、協会内講師に加え、大和総研、日本投資者保護基金、証券保管振替機構、証券・金融商品あっせん相談センター (FINMAC)、野村證券、日本取引所グループ、金融庁、証券取引等監視委員会 (講義順) にご協力をいただき、日本の証券市場における法規制、取引イ

---

<sup>1</sup> アジア・太平洋地域の証券業界の交流と証券市場の発展に寄与することを目的に、同地域の証券業協会の代表者、証券取引の専門家が情報・意見交換を行う国際会議。平成7年(1995年)に本協会が提唱して発足した。本年11月には第21回総会がマニラで開催された。

ンフラ、関係機関の業務内容等を紹介する各種講義を行った。

また、最終日には参加者が所属機関の特徴ごとに 5 つのグループに分かれて各機関の概要や市場の現状及び課題についてプレゼンテーションを行った後に、各テーマ毎に本協会職員がモデレーターとなって各国・地域の証券市場が抱える問題及び将来の共通の課題等についてディスカッションが行われた。

(参加機関の特徴ごとのグループ)

- グループ A： 自主規制機関 (5 機関)
- グループ B： 先進経済圏の業界団体 (3 機関)
- グループ C： 債券市場協会 (2 機関)
- グループ D： 発展途上国の業界団体 (5 機関)
- グループ E： 証券規制当局 (6 機関)

事前アンケートの実施により、各市場の証券規制及び自主規制の現状等を事前に把握し、これらの情報を参加者間で共有できたため、参加者のモチベーションは極めて高く、中身の濃いディスカッションが行われた。参加者からも、日本の証券市場の成り立ちや自主規制の枠組みについての全体像を効率的に把握できたこと、取引所や証券会社など外部での講義においても最近のトピックスも踏まえた有意義な話を聞くことができたこと、金融庁及び証券取引等監視委員会では日本の証券規制の枠組み及び概要を知ることができたとの声があった。また、各参加者によるプレゼンテーション及びディスカッションを通じて、近隣のアジア地域の証券市場の状況や共通の課題について相互に認識を深めることができたとの評価を受けた。一方、参加者からは質問、ディスカッションの時間が足りないとの声が多く聞かれた。

参加者はすべてアジア・太平洋地域の自主規制機関、証券業界団体若しくは規制当局において証券市場運営の第一線を担っている人々であり、各市場の発展のため本セミナーで得た知識・情報を活用していただけるものと期待している。さらに、今回のセミナーを通じて、本協会をはじめ日本の証券関連機関がアジアの証券市場との友好関係、信頼関係を強化することができたことの意義は大きいものとする。本協会としても、この成果を生かし、今後一層、アジア証券人フォーラム(ASF)をはじめとするアジア域内協力のネットワークを拡充し、また、各市場との連携、協力関係の構築及び情報交換を促進していくこととしたい。



森本副会長の開会挨拶



講義の様様



歓迎レセプションで参加者と歓談する稲野会長



東京証券取引所の見学



参加者によるプレゼンテーション



参加メンバー集合写真

## (別表) 第12回 ASF 東京ラウンドテーブル/プログラム

日		プログラム名	講義担当機関(部署)
11/28 (月)	1	オリエンテーション、協会の概要	日本証券業協会 国際部
	2	日本の証券市場の歴史及び概要	大和総研
	3	協会の自主規制機能(自主規制の枠組み、証券界の自主規制ルール)	日本証券業協会 自主規制企画部
	4	外務員資格制度・資格試験及び外務員登録制度	日本証券業協会 資格管理部
	5	証券会社役職員の研修制度	日本証券業協会 研修部
11/29 (火)	6	エクイティ市場(市場外取引、クラウドファンディング等)	日本証券業協会 エクイティ市場部
	7	公社債市場(債券市場概要、協会規則)	日本証券業協会 公社債・金融商品部
	8	証券化商品・デリバティブ市場の概況及び規制の枠組み	日本証券業協会 公社債・金融商品部
	9	投資者保護基金の概要	日本投資者保護基金
	10	監査(協会監査、他機関との監査の分担)	日本証券業協会 監査部
	11	処分(処分の決定方法、規制当局への報告)	日本証券業協会 規律審査部
11/30 (水)	12	証券保管振替システムの概要	証券保管振替機構
	13	投資家教育	日本証券業協会 普及推進部、金融・証券教育支援センター
	14	証券業協会の会費体系	日本証券業協会 経理部
	15	紛争処理	証券・金融商品あっせん相談センター(FINMAC)
	16	証券会社のコンプライアンス体制の概要	野村證券
12/1 (木)	17	東京証券取引所の業務	日本取引所グループ
	18	金融商品取引法の概要	金融庁
	19	証券取引等監視委員会の概要	証券取引等監視委員会
12/2 (金)	20	ラウンド・テーブル: 各市場の課題に関するプレゼンテーション	参加者全員 日本証券業協会 国際部
	21	総括	日本証券業協会 国際部